まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

みんなの公園　活用イベント

中学生がつくる冒険あそび場

ワンダふるたパーク！

2013-2018
事業まとめ

中学生×地域

公益財団法人広島市文化財団古田公民館

Oh! ワンダふるた
it's a wonderful town.
it's a wonderful time.
すてきなふるたプロジェクト

みんなが先生！　みんなが生徒！
多世代寺子屋ネットワーク

1. “このまち”について

（１）古田地区について

・古田中学校区…広島市西区（山田・古田台・古田・高須）の４小学校区からなる閑静な住宅街。

・人口 27,014 人、世帯数 11,164 世帯（H30.3 末）

・高齢化率 19.0%（市 24.6%）、年少人口率 15.3%（市 13.9%）(H30.3 末）…世代の均衡がとれた地区。〈図１〉

・旧山陽道（西国街道）に面し、古江神楽や歴史ある寺社が残り、武家茶道上田宗箇家元がある。特産品は古江いちじくが有名。宅地化が進み、新興住宅も増加。

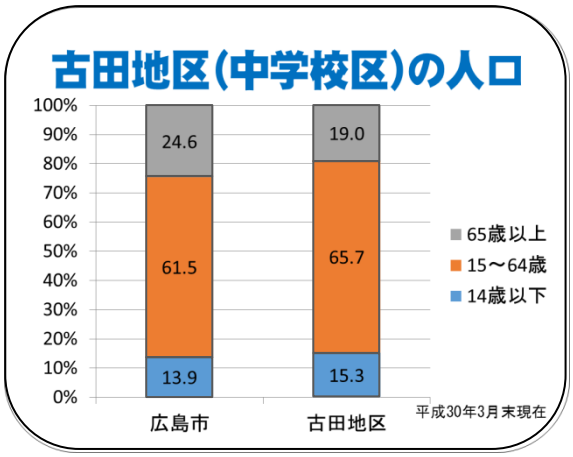


図１　古田地区の世代別人口比率（H30.3 末）

2. プロジェクトが始まるまで

（１）時代背景

・人口減少社会…日本の人口が 2010 年ピーク以降、急減の兆し。〈図２〉

・人生 100 年時代…「ライフ・シフト」というマルチステージの生き方。人的ネットワーク（人とのつながり）など無形の資産へ関心が高まる。社会参加と健康寿命。

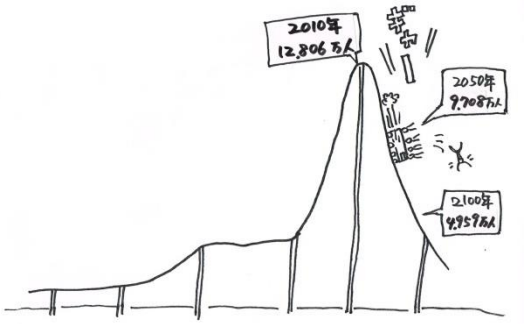


図２　日本の人口減少をジェットコースターに例えて

（２）古田公民館事業施策の柱に「多世代」

・多世代が支えあうふるさとづくり…H23 に世代をつなぐ事業の展開を重点施策に据える。

（３）「多世代寺子屋ネットワーク」の発足

・公民館ワークショップ参加者で H24 に発足。「多世代」をキーワードに地域の居場所づくり。〈図３・４〉

・寺子屋メンバーが約 50 のアクションプランを立案。いきいきプラチナ塾…シニア対象地域デビュー講座、あはは演芸サロン…趣味の大道芸を学び地域デビューしたシニア団体が多世代で集う地域サロンを運営、古江いちじくプロジェクト…地域ブランドいちじくを次世代へ継承するため小学校の総合学習を支援、など特色ある公民館事業が生まれた。

図３　多世代寺子屋のミーティング風景（H24）

（４）「このまちにくらしたいプロジェクト」の始動

・広島市立古田中学校からＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）学習支援の要請を受け、公民館と多世代寺子屋で中学生の地域ＥＳＤ活動の受け皿となる。

・生徒を募集し、H25 年９月プロジェクト開始〈図５〉

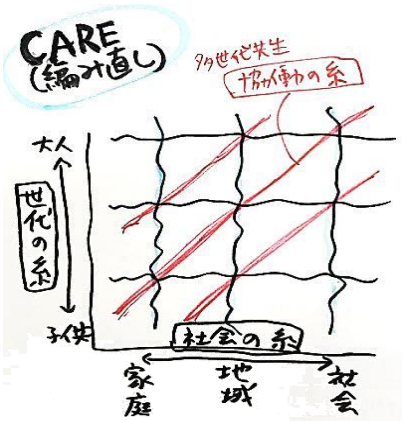


図４　多世代寺子屋の理念「CARE（編み直し）」

3. プロジェクトが紡ぐ物語

（１）プロジェクトの目的

中学生が住民とともに、人口減少などの社会課題と向き合い、住みなれた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、そのために今、住民自身でできる行動を起こすこと（住民自治）を目指す。

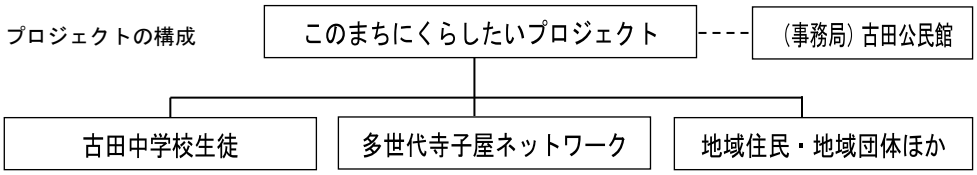
また、その学習活動の成果を生かして、社会に主体的に関わり行動する人材を育むための活動を行う。

図５　プロジェクト第１回ワークショップ（H25.9）

（２）実施主体

広島市立古田中学校の生徒（校外活動として公募）と、多世代共生のまちづくりをテーマに地域の居場所づくりに取り組む住民グループ「多世代寺子屋ネットワーク」および地域住民等が連携し、古田公民館を拠点に、世代を超えた地域づくりに取り組む。〈図６〉

図６　プロジェクトの構成



（３）活動テーマ

『みんながしあわせにつかえる公園・あそび場づくり』

現在の公園は、価値観や生活スタイルの多様化に伴い、危険や騒音等に伴う様々な規制が利用者を減少させている実態が見受けられる。公園のあり方を住民自身で再考するきっかけをつくり、世代をつなぐ地域の居場所として再生させることを目指す。〈図７〉

＜経緯＞

・平成 25 年度…ワークショップで中学生発案による同テーマを決定し、地域住民に発表。〈図８〉

・平成 26・27 年度…調査・立案を経て、モデルプラン「冒険あそび場（プレーパーク）」を試行。

（平成 26 年度「環境省・持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」の助成を受け実施）

・平成 28 年度以降…モデルプランの地域定着化を図る。

（平成 28・29 年度「広島県公民館連合会・公民館等活性化モデル事業」の助成を受け実施）

（平成 30 年度「広島県こども夢基金活動助成事業」の助成を受け実施）

図７　中学生が選んだ活動テーマ（H26.3）

図８　活動テーマを住民に発表する中学生（H26.3）

（４）活動の概要

・公園活用イベント「冒険あそび場ワンダふるたパーク」の実施（古江西町公園）〈図９〉

①冒険あそび場プレーパークゾーン（対象：子ども）…ジップライン、竹ブランコ、巨大ハンモック、廃材木工、焚き火ほか

②大人もくつろげるカフェゾーン（対象：保護者、親子連れなど）…コーヒー、ジュース、おやつ作り

③にわか大道芸体験ゾーン（対象：多世代）…皿回し、バルーン、紙芝居ほか

・あそび場づくり企画ワークショップ（古田公民館ほか）

・他地区のあそび場視察研修やネットワーク交流　など

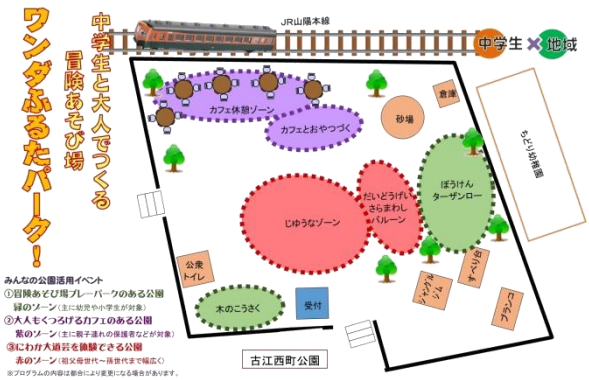


図９　ワンダふるたパークのレイアウト

（５）活動実績と成果・課題

図 10　プロジェクト活動実績総括表

このまちにくらしたいプロジェクト・データ総括表

年度	期間	回数	生徒数	生徒内訳					サポーター数	サポーター内訳				延べサポーター数	サポーター数/回	内容				発表・イベント等の参加人数	アンケート満足度	延べ参加者数
				1年	2年	3年	男	女		大人	大学	高校	児童			ワークショップ	外部研修	発表会	イベント			
H25(2013)	10月～3月	6	12	3	6	3	6	6	23	18	5	0	－	69	11.5	5		1		50	90%	149
H26(2014)	7月～3月	13	25	6	9	10	9	16	47	34	11	2	－	171	13.2	10	1	1	1	200	70%	658
H27(2015)	6月～3月	15	18	3	9	6	6	12	34	23	5	6	－	136	9.1	12	2		1	150	89%	404
H28(2016)	6月～3月	11	12	4	2	6	5	7	30	23	4	3	－	88	8.0	7	2		2	148	89%	281
H29(2017)	5月～3月	10	9	0	7	2	0	9	44	32	5	7	－	128	12.8	3	3		4	485	93%	615
H30(2018)	6月～3月	11	20	5	5	10	3	17	59	32	7	4	16	276	25.1	5	1	1	4	599	92%	875

＜成果＞

・イベント回数（H29～年４回）を増やし、毎回延べ 100 人を超える参加者で、公園に賑わいが生まれた。〈図 10〉

・利用者アンケートで、80％強の人が「公園のあり方を考えるきっかけになった」と回答。満足度も高評価。

・幅広い世代をつなぐ地域の居場所として、徐々に住民の共感を集めている。

・生徒たちの遊び場づくりに共感した住民が様々な形でサポートしてくれるようになった。〈図 11〉

・子どもたちそれぞれが「公園づくり」の担い手としての意識が芽生えつつある。

・地域団体等との連携が生まれ、認知度や信頼感が増す中、地域からの支援が広がりつつある。

＜課題＞

・持続可能な取り組みにするため、あそび場づくりの担い手となる地域の協力者の発掘や育成の促進が急務。

・活動資金が助成金に依存しないよう、公園での収益活動やサポーター制度、地域団体等との連携など工夫が必要。

・公園活用以外の活動テーマを探るとともに、プロジェクトとしての自立を促す時期にきている。

図 11　中学生を応援する多世代にわたるサポーター

4. 生まれた交流と連携

（１）支援者（サポーター）

・近所の工作指導者が遊びコーナーの企画協力を申し出。
・公民館のシニア向け地域デビュー講座から発足したグループが活動支援。〈図 12〉
・郵便局や民間ギャラリーが活動写真展の場所提供。

図 12　公民館講座から発足した大道芸グループが協力

（２）地域団体

・町内会から公園倉庫に活動用具を置かせてもらえることになり、準備の負担が軽減。
・会員減少に悩む子ども会の行事と連携し、世代間交流が生まれた。〈図 13〉
・女性会の防災炊き出し訓練と連携し、子どもたちにおやつ提供。老人クラブによるあそび場づくり支援。

図 13　地域団体との連携が理解と信頼を育む

（３）ネットワーク

・県内の冒険あそび場づくりの団体間ネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」が発足、SNS で情報発信。他地区の団体との情報交換や交流の場が生まれた。
・H31 年 3 月に公民館で多世代あそび場シンポジウムを開催。遊び場マップの作製も準備中。

5. プロジェクトの展望と公民館の役割

（１）プロジェクトの成果と展望

・中学生の声から生まれた行動が、公園のあり方やその必要性を地域に問いかけるきっかけになった。
・多世代の交流機会は、中学生に限らず、大人にとっても第三の居場所として、お互いの価値観を学びあえる人間形成の場となっている。
・地域団体との連帯が深まり、町内会からの助成など物心両面の支援が生まれている。
・中学生の発案を公民館や地域住民のサポートにより具現化し多世代交流の促進につなげていったこと、ＥＳＤ教育の一環として取り組んできたことなどが評価され、プロジェクト活動拠点の古田公民館が第 71 回（2018 年度）優良公民館最優秀館として文部科学大臣表彰された。〈図 14〉

（２）これからの公民館の役割

・公民館は単に施設に人を集めるという住民の舞台装置にとどまらず、その学びを生かして地域のフィールド（公園、学校、商店街など）で活躍する人材を輩出する控え室（インキュベーター）としての役割がある。
・住民の自治力やまちの付加価値を高めるために営まれる住民活動のパートナーとして、そこに暮らす人たちのまちを想う気持ちを引き出し育む役割がある。

図 14　古田公民館の全景

このまちにくらしたいプロジェクト （資料編）活動風景

中学生×地域

H25（2013）年度

30 年後のまちの将来像を描き、そのために今から行動できるテーマを住民に発表。

H26（2014）年度

公園の調査、アンケートなどを実施し、計画した活用プランの体験会を開催。

H27（2015）年度

活動拠点の公園を決め、冒険あそび場を視察し、多世代が訪れるイベントを企画。

H28（2016）年度

遊びのアイデアや遊具作りのノウハウを蓄積し、遊び場づくりの基盤を整備。

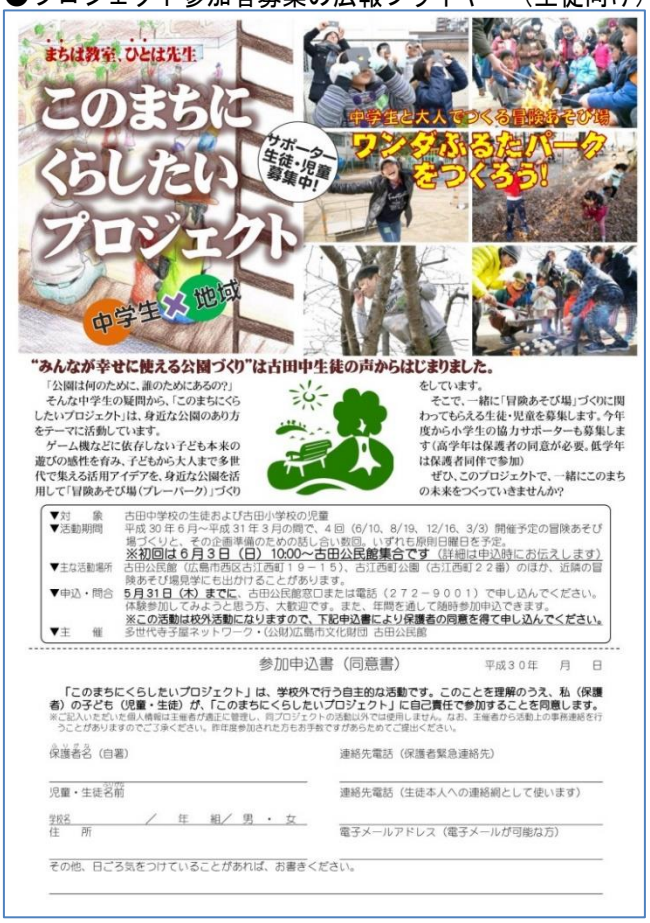
H29（2017）年度

イベント開催頻度を増やし、活動をＰＲし、地域への定着と支援者の開拓を図る。

H30（2018）年度

中学生主体の運営強化や地域団体との連帯を深め、持続可能性を探る。

●プロジェクト参加者募集の広報フライヤー（生徒向け）


まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

サポーター生徒・児童募集中!

中学生と大人でつくる冒険あそび場

ワンダふるたパークをつくろう!

中学生×地域

“みんなが幸せに使える公園づくり”は古田中生徒の声からはじまりました。

「公園は何のために、誰のためにあるの?」
そんな中学生の疑問から、「このまちにくらしたいプロジェクト」は、身近な公園のあり方をテーマに活動しています。
ゲーム機などに依存しない子ども本来の遊びの感性を育み、子どもから大人まで多世代で集える活用アイデアを、身近な公園を活用して「冒険あそび場（プレーパーク）」づくりをしています。
そこで、一緒に「冒険あそび場」づくりに関わってもらえる生徒・児童を募集します。今年度から小学生の協力サポーターも募集します（高学年は保護者の同意が必要。低学年は保護者同伴で参加）
ぜひ、このプロジェクトで、一緒にこのまちの未来をつくっていきませんか?

▼対　象　古田中学校の生徒および古田小学校の児童
▼活動期間　平成30年6月～平成31年3月の間で、4回（6/10、8/19、12/16、3/3）開催予定の冒険あそび場づくりと、その企画準備のための話し合い数回。いずれも原則日曜日を予定。
※初回は6月3日（日）10:00～古田公民館集合です（詳細は申込時にお伝えします）
▼主な活動場所　古田公民館（広島市西区古江西町19－15）、古江西町公園（古江西町22番）のほか、近隣の冒険あそび場見学にも出かけることがあります。
▼申込・問合　5月31日（木）までに、古田公民館窓口または電話（272－9001）で申し込んでください。体験参加してみようと思う方、大歓迎です。また、年間を通して随時参加申込できます。
※この活動は校外活動になりますので、下記申込書により保護者の同意を得て申し込んでください。
▼主　催　多世代寺子屋ネットワーク・(公財)広島市文化財団 古田公民館

参加申込書（同意書）　平成30年　月　日

「このまちにくらしたいプロジェクト」は、学校外で行う自主的な活動です。このことを理解のうえ、私（保護者）の子ども（児童・生徒）が、「このまちにくらしたいプロジェクト」に自己責任で参加することを同意します。
※ご記入いただいた個人情報は主催者が適正に管理し、同プロジェクトの活動以外では使用しません。なお、主催者から活動上の事務連絡を行うことがありますのでご了承ください。非年度参加された方もお手数ですがあらためてご提出ください。

保護者名（自署）　連絡先電話（保護者緊急連絡先）
児童・生徒名前　連絡先電話（生徒本人への連絡網として使います）
学校名　／　年　組／男・女
住　所　電子メールアドレス（電子メールが可能な方）
その他、日ごろ気をつけていることがあれば、お書きください。

●プロジェクト活動写真展の広報フライヤー

このまちにくらしたいプロジェクト

中学生とつくる冒険あそび場

ワンダふるたパーク!

写真展

「みんなが幸せに使える公園づくり」は古田中学校生徒の声からはじまりました。

Gallery Cafe 月 ~yue~
広島市西区古江新町 8-19
TEL 082-533-8021
http://www.g-yue.com

展示期間 4/5(木)～15(日)(定休日月曜)
10:30～18:30(最終日は17:00まで)

中学生×地域

photo by Masao Kawahara

●ワンダふるたパーク（2018年8月19日）の広報フライヤー＜左：表面、右：裏面＞

まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

みんなの公園 活用イベント

中学生がつくる冒険あそび場

ワンダふるたパーク!

公園にあそびにおいで!

中学生×地域

●日 時　8月19日(日) 10:00～15:00頃
※時間内、出入り自由です。
●場 所　古江西町公園(通称 ちどり公園)
広島市西区古江西町22番・ちどり幼稚園となり
※雨天により屋外で実施できそうにない場合は中止します。
●参加方法 参加無料
※お子さまがあそびに参加される場合は、古田公民館等で配布するチラシ裏面の申込書記入の上ご持参ください。
●問合せ 古田公民館(電話082-272-9001)
●主 催　このまちにくらしたいプロジェクト
●協 力　古江西町町内会
多世代寺子屋ネットワーク
(公財)広島市文化財団古田公民館

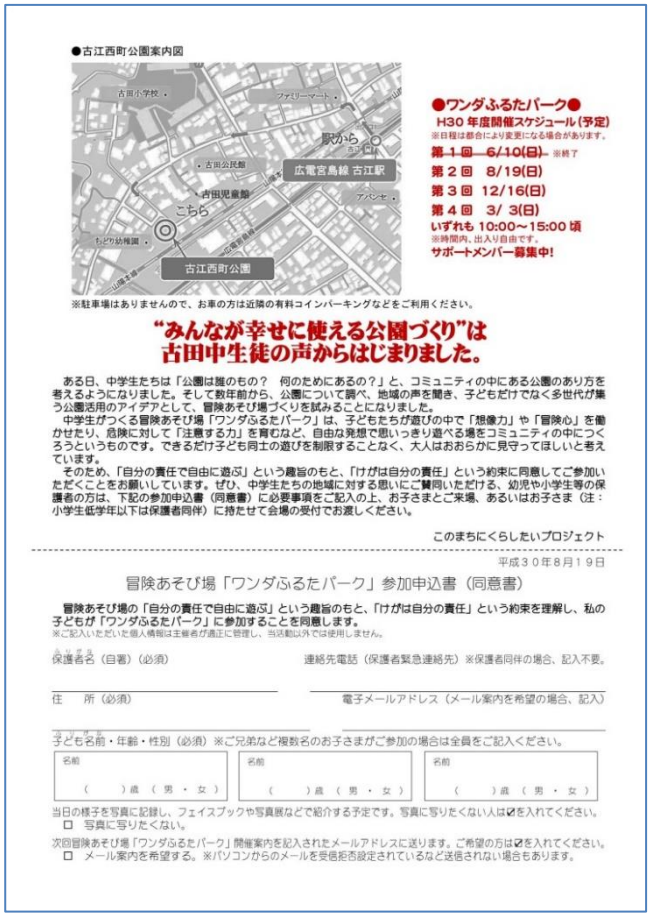
8/19(日) 10:00～15:00 古江西町公園

●プログラム(予定)
※プログラムの内容は都合により変更になる場合があります。
みんなの公園 活用体験会
①冒険あそび場のある公園
(主に幼児や小学生が対象)
②大人もくつろげるカフェのある公園
(主に親子連れの保護者などが対象)
③にわか大道芸を体験できる公園
(幅広い世代が楽しめます)

特別ゲスト・プログラム(14:00頃～予定)
「劇団小豆組」の殺陣パフォーマンスと忍びの手裏剣体験

みんなが しあわせに つかえる 公園★あそび場を つくろう!大作戦!
30年後のこのまちの未来を中学生たちが考えています。
故郷(ここ)に暮らし続けるために…

この事業は「平成30年度広島県こども夢基金活動助成事業」として助成金を受けて実施しています。


●古江西町公園案内図

古田小学校　ファミリーマート　駅から　古田公民館　広電宮島線 古江駅　古田児童館　アベシャ　こちら　ちどり幼稚園　古江西町公園

●ワンダふるたパーク●
H30年度開催スケジュール(予定)
※日程は都合により変更になる場合があります。
~~第1回 6/10(日)~~ ※終了
第2回 8/19(日)
第3回 12/16(日)
第4回 3/3(日)
いずれも 10:00～15:00頃
※時間内、出入り自由です。
サポートメンバー募集中!

※駐車場はありませんので、お車の方は近隣の有料コインパーキングなどをご利用ください。

“みんなが幸せに使える公園づくり”は古田中生徒の声からはじまりました。

ある日、中学生たちは「公園は誰のもの？　何のためにあるの？」と、コミュニティの中にある公園のあり方を考えるようになりました。そして数年前から、公園について調べ、地域の声を聞き、子どもだけでなく多世代が集う公園活用のアイデアとして、冒険あそび場づくりを試みることになりました。
中学生がつくる冒険あそび場「ワンダふるたパーク」は、子どもたちが遊びの中で「想像力」や「冒険心」を働かせたり、危険に対して「注意する力」を育むなど、自由な発想で思いっきり遊べる場をコミュニティの中につくろうというものです。できるだけ子ども同士の遊びを制限することなく、大人はおおらかに見守ってほしいと考えています。
そのため、「自分の責任で自由に遊ぶ」という趣旨のもと、「けがは自分の責任」という約束に同意してご参加いただくことをお願いしています。ぜひ、中学生たちの地域に対する思いにご賛同いただける、幼児や小学生等の保護者の方は、下記の参加申込書（同意書）に必要事項をご記入の上、お子さまとご来場、あるいはお子さま（注：小学生低学年以下は保護者同伴）に持たせて会場の受付でお渡しください。

このまちにくらしたいプロジェクト

平成30年8月19日

冒険あそび場「ワンダふるたパーク」参加申込書（同意書）

冒険あそび場の「自分の責任で自由に遊ぶ」という趣旨のもと、「けがは自分の責任」という約束を理解し、私の子どもが「ワンダふるたパーク」に参加することを同意します。
※ご記入いただいた個人情報は主催者が適正に管理し、当活動以外では使用しません。

保護者名（自署）（必須）　連絡先電話（保護者緊急連絡先）※保護者同伴の場合、記入不要。
住　所（必須）　電子メールアドレス（メール案内を希望の場合、記入）
子ども名前・年齢・性別（必須）※ご兄弟など複数名のお子さまがご参加の場合は全員をご記入ください。
名前　（　）歳（男・女）　名前　（　）歳（男・女）　名前　（　）歳（男・女）
当日の様子を写真に記録し、フェイスブックや写真展などで紹介する予定です。写真に写りたくない人は☑を入れてください。
□ 写真に写りたくない。
次回冒険あそび場「ワンダふるたパーク」開催案内を記入されたメールアドレスに送ります。ご希望の方は☑を入れてください。
□ メール案内を希望する。※パソコンからのメールを受信拒否設定されているなど送信されない場合もあります。

平成 25 年(2013 年)12 月 20 日中国新聞

2013年（平成25年）12月20日（金曜日） 中国新聞

まちの未来像 中学生探る

西区古田 防犯や特産栽培提案

古田地区の理想像を話し合い、模造紙に書き込む生徒（右側の2人）たち

広島市西区古田地区の住民たちが、魅力あるまちづくりに向けた「このまちにくらしたいプロジェクト」に取り組んでいる。ワークショップを通じて地区の課題を探り、目指すべき将来像を検討。来年3月までに行動プランをまとめる。

古田中の1～3年生10人を含む約30人が月1回ペースで活動している。10月の初会合に続き、11月は地区を歩いて、点在する空き家など防犯・防災面の課題を確認。3回目の今月14日は、30年後の地区の理想像について意見を交わした。「商店街ににぎわいを」「空き家を農地に変え、特産のイチジク栽培を広げたい」などの意見が出た。

同地区はマンションや新興住宅が多く、市内の他地区と比べて子どもの割合が高いという。将来を見据え、まちづくりに子どもの視点を生かそうと、世代を超えて地区の魅力を学ぶプロジェクト「ふるた多世代寺子屋」に携わるメンバーが、古田中に声を掛けた。

3年の山岡京君(15)は「住民が一つの家族のように過ごせる地区が理想。自分たちにできるプランを考えたい」と意気込んでいる。

（和泉恵太）

平成 27 年(2015 年)3 月 7 日 読売新聞

2015年(平成27年)3月7日(土曜日) 読売新聞

30年後もにぎわう町に

広島・古田中生徒

「公園で交流」テーマ あす住民とイベント

公園で使う手作り遊具を準備する中学生ら（広島市西区の古田公民館で）

自分たちの町の30年後を想像してみよう――。広島市立古田中（西区）の生徒有志が、「このまちにくらしたいプロジェクト」と題して2年前から放課後や休日を使って話し合い、8日に地域住民と連携して古江新町第一公園でイベントを開く。生徒たちは「多くの人に来てもらい、世代を超えて楽しみたい」と意気込んでいる。

（山本美菜子）

プロジェクトは、国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）が推進する「持続可能な開発のための教育（ESD）」の一環。同中が環境問題や貧困など国際的な視点に立った授業に取り組む中で、地域と連携して町の将来を考える活動を2年前から始めた。

メンバーは生徒25人。古田公民館を拠点に、地域の大人たちも交えて話し合いを重ねた。「高齢化が進めばにぎわいもなくなるし、世代も偏る」「子どもも外で遊ばないし、交流もない」などとの意見を集約する中、今できる活動として「地域の公園をもっと活用することをテーマに定めた。

専門家の指導を基に、商業施設や公園、グループホームで約100人にアンケートを実施。現地調査ではコーヒーショップや遊び場がある中区の公園を訪れた。その結果、騒音を問題視する意見や、年代によって違う楽しみ方があることにも気づいたという。

そこから考え出したのは、会場の公園を、音に配慮して遊ぶプレイゾーン▽のど自慢大会を行う交流ゾーン▽カフェを設けるレストゾーン――に3分割すること。生徒らのアイデアで生まれた〈サイレント忍びのあそび術〉は、忍者のように声を出さずに様々なゲームに挑戦するなど親子で楽しめる工夫を凝らした。

プロジェクトリーダーの3年、大島知鈴君(15)は「学校の授業より気合の入った2年間だった。プロジェクトを通じて地元に愛着が湧いた」と振り返る。同プロジェクトは今後も地域連携の活動を展開していく。

イベントは午前10時～午後3時まで参加無料。問い合わせは古田公民館（082・272・9001）。雨天時は同館で開催する。

【問題意識の共有、目指すべき将来像の構築】

こんな地域になったらいいな！

事例1-1 地元中学生が地域の将来を考える 西区・古田地区

【取組主体：古田中学校、古田公民館、地域住民有志等】

概要

古田中学校の生徒と古田地区の地域住民とが一緒になって、「このまちにくらしたいプロジェクト」を立ち上げ、地域の30年後のまちと暮らしを考えています。

取組内容

- 古田中学校に通う生徒のうち希望があった者約25人と、地域住民約20人が、月に1回程度、休日や放課後に、古田公民館の会議室等で話合いを行っています。
- ワークショップを通して、中学生自ら自分達が暮らす地域の課題を探り、目指すべき将来像の検討や、具体的な行動プランの提案を行うこととしていて、ワークショップの講師には、外部の専門家を招いています。
- また、話し合った結果を発表する機会もあり、平成27年3月には、「みんながしあわせに使える公園★遊び場をつくろう！大作戦」と題し、「子どもからお年寄りまで多世代が集い楽しく使うにはどうすればいいか」など、1年間かけて話し合ったことを公園で発表しました。
- 取組のきかっけは、古田中学校から住民に、生徒の地域参加の相談をしたことで、受け皿として古田公民館を拠点に多世代の居場所づくりに取り組む住民グループ「多世代寺子屋ネットワーク」が支援しています。

＜このまちにくらしたいプロジェクトの活動状況等＞

参加メンバー	古田中学校生徒約25人、地域住民約20人（平成26年実績）
実施日時等	月に1回程度、土・日曜日や放課後に、古田公民館の会議室等で話合いを行っています。（平成26年度は17回実施）
発表会	年1～2回程度（平成26年度は2回実施） ※話合いの内容等に応じて、時期、場所を決めています。

「住宅団地活性化ハンドブック（事例集）」
平成 27 年広島市発行
http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1428018987826/index.html

平成 30 年(2018 年)11 月 12 日 日本教育新聞

最優秀は広島市古田公民館

文科省表彰

ESD支援を機に公園再生

文科省は2日、広島市古田公民館を本年度の最優秀公民館に選んだ。同公民館は、中学生の地域学習を支援してほしいとの声をきっかけに、中学生と住民が力を合わせ、寂れた公園をよみがえらせるなどした。

審査会では同公民館を含む5館が最終審査に臨んだ。その際の発表によると、広島市内では高齢者の比率が低い地域にある同公民館では、5年前から生徒と住民で公園の在り方について話し合いが始まった。

平成27年には大人から子どもまで集まれる場所として、公民館付近の公園に手作りの遊び場やカフェ、大道芸体験場などをつくった。関連イベントも毎年行っている。世代の垣根を越えた住民同士の交流が増え、地域団体などとの連携が生まれた。

大道芸を交えて発表した古田公民館の職員

住民の孤立を防ぐため多世代の交流に力を入れてきた。近くの中学校から、身近な出来事を通して社会を継続するための問題解決能力を養うESD（持続可能な開発のための教育）の受け皿を引き受けてほしいとの要望を受けて、一連の事業につながっていったという。

同公民館に勤める為政久雄さんは、「これからの公民館は、そこに人を集めるための住民の舞台装置にとどまることなく、公園や学校、商店街のようなまちのフィールドで活躍する人たちを送り出す『控え室』のような場所だ」などと話した。

審査会では他に、越前市岡本公民館（福井）、福井市清水西公民館、倉吉市上北条公民館（鳥取）、甘日市市串戸市民センター（広島）が優秀館として発表に臨んだ。

岡本公民館は青年グループの発足を支援。地域活性化を目指す催しなどを実現した。清水西公民館は合併前の旧清水町にあり、当初は独立した建物がなかったところから住民による登山道整備などの活動を行った。

上北条公民館は小学校4、5、6年生を対象に地域リーダーの育成を目指した。串戸市民センターは若い世代が多い地域にあり、町内会への加入率が低いなどの地域性がある中で若年世代の利用を促す事業を手掛けた。